

JA全農ウィークリー

2
面

「石川佳純 47都道府県サックスツアー」
第1回を福島県喜多方市で開催（広報・調査部）

6-7面

食料への権利と農業(1)

子どもたちの食生活が今危ない

農業ジャーナリスト 山田優



完成した米の低温倉庫「JA全農 めぐみの米
Xross Depo」(2面)



子実トウモロコシの播種作業(4面)



卓球教室で親身にアドバイスをする石川選手(2面)

- 2 米の低温倉庫「JA全農 ぎふの米 Xross Depo」竣工(岐阜県本部)
- 3 国際養鶏養豚総合展に協賛・出展(畜産生産部)
- 4 国産「子実トウモロコシ」の大規模実証開始(宮城県本部、耕種総合対策部、米穀部ほか)
- 5 JAブームイン(福岡:JA直鞍)

- 8 「ニッポンエール 宮崎県産日向夏」を
リニューアル(営業開発部)
- 「全農東北プロジェクト」
ホームページ開設(全農東北プロジェクト)
- JAタウンショップ紹介
JA全農かながわ

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

**Web
限定**

ハウスぶどう統一販売(山梨県本部)

名古屋駅構内デジタルサイネージで
岐阜県産トマトをPR(岐阜県本部)

News!



第1回「石川佳純 47都道府県サックスツアー」を福島県喜多方市で開催

バランス良い食事の大切さもアドバイス

広報・調査部



親身にアドバイスをする石川選手

また、栄養学や福島県の農畜産物に関する問題が話題されたクイズ大会や、「スポーツと食」をテーマにしたトークショーも開催。石川選手は「炊飯器とお米を持って行って、毎日3食お

「石川佳純47都道府県サックスツアー」(企画…IMG)の第1回を、全農が主催して福島県で開きました。石川選手は世界トップレベルのプレーを披露し、子どもたちと一緒に汗を流し卓球の楽しさを分かち合いました。

米を食べています」と海外遠征時のエピソードや小学生の頃に苦手だったトマトやピーマンなどの野菜を克服したきっかけも披露し、子どもたちへ好き嫌いせずバランス良く食事をするこの大切さを伝えました。

全農は4月16日、福島県喜多方市の押切川公園体育館で、全農所屬・卓球日本代表の石川佳純選手が47都道府県をめぐり、子ども向けの卓球教室「全農 presents 石川佳純47都道府県サックスツアー in 福島」を開催しました。



参加者の皆さんとの記念撮影

News!



米の低温倉庫「JA全農 ぎふの米 Xross Depo」竣工

収容力不足解消で安定した品質の米を消費者へ

岐阜県本部



完成した「JA全農 ぎふの米 Xross Depo(クロスデポ)」



米を保管する施設の内観

同施設は鉄骨造りの2棟で、延べ床面積は約2800平方メートル。約5000トンの米を収容できる県内最大の低温倉庫で、年間約1万トンを取り扱います。JAの農業倉庫の老朽化や民間の営業倉庫の業務縮小によって深刻となっている米穀の収容力不足への対応が期待されています。

収穫期には米の保管場所に苦慮する農家からの集荷を拡大し、春以降は常温保管のkantoriエレベーターから低温保管の同施設に移すことで米の品質低下を防ぐことが可能です。

岐阜県本部は、県内で収穫された米の品質を保つ米の低温倉庫「JA全農 ぎふの米 Xross Depo(クロスデポ)」を海津市平田町に建設し、4月21日に竣工式を行いました。県域で活用する米穀倉庫の取得は、岐阜県内では初となります。

竣工式には、農業団体の代表や施工業者ら約30人が出席。岐阜県本部の山内清久運営委員会会長は、「交通アクセスの良さを生かし、安定した品質の米を消費者へ届けたい」と意気込みを語りました。



国際養鶏養豚総合展(IPPS)に協賛・出展

全農グループが持つ機能を生かした総合的支援をアピール

畜産生産部



世界最先端の施設・機械・機器具・資材が集まった国際養鶏養豚総合展

全農は、4月27日から29日にポートメッセなごや(名古屋国際展示場)で開かれた「国際養鶏養豚総合展(IPPS)2022」に協賛・出展しました。

IPPSは、養鶏・養豚経営の近代化・効率化を図るため、鶏卵・鶏肉・豚肉の生産・流通に関する世界最先端の施設・機械・機器具・資材が集まる国内最大の展示会です。

全農をはじめ、全農畜産サービス(株)、(株)科学飼料研究所、JA全農たまご(株)は、「環境」「衛生」「養

鶏」「養豚」の四つのカテゴリーで展開。「e-フィード」「201プラスR」などの環境対策飼料、過酢酸系消毒剤の「ビネパワー」や噴霧機の「オルサスミスト」、卵質測定装置や近年の鶏IBウイルスの中でも検出数が最も多いJPIII型に対して高い効果を持つ新ワクチン「IB生」科飼研「JPIII」、肥育豚の体重推定機「P-scaleハイコープver.」などを展示・説明しました。

また、併催行事として開催された「特別講演会」では、JA全農たまご東日本営業本部第一営業部の宮崎淳部長をはじめ、計6人による講演が行われました。



トライフープ岡山へMVP賞を贈呈

岡山県産農畜産物で選手を応援

岡山県本部

岡山県本部は4月17日、岡山市のジップアリーナ岡山で開かれた男子バスケットボールB3リーグに所属する「トライフープ岡山」のホームゲームで、最優秀選手へMVP賞として、県産農畜産物を贈呈しました。

岡山県本部は、トライフープ岡山とサプライヤー契約を結んでおり、全ホームゲームでMVP賞選手に県産農畜産物を提供しています。MVP賞は、おかやま和牛肉、ピーチポーク、ブランド米「里海米」、ブランドイチゴ「晴苺」などの岡山県が誇る農畜産物で、B2昇格を目指して戦う選手を「岡山

の食で応援しています。試合後のセレモニーでは、当日MVP賞に輝いた川満寿史選手へ、佐賀弘県本部長が県産農畜産物の詰め合

わせた目録を手渡しました。当日は、来場者全員に、里海米「きぬむすめ」2合パックを配布。ノベルティパックのデザインは、トライフープ岡山とコラボした限定デザインを作成し、ファンの方々に大変好評でした。

また、4月17日は「ヨ・イ・ナ・ス」の語呂合わせから「なすび記念日」に制定されており、岡山県本部の千両なすキャラクター「あっぱれ健紫郎」も会場に登場。試合後には、来場者に千両



最優秀選手へMVP賞を贈呈(右から川満選手、佐賀県本部長、岡山市で)



来場者プレゼントの里海米「きぬむすめ」ノベルティ



千両なすを配布する佐賀県本部長

国産「子実トウモロコシ」の大規模実証開始

生産・流通・飼料利用におけるメリットや課題を確認

近年、水田での転作作物や自給飼料として、「子実トウモロコシ」に注目が集まっていますが、北海道を除くとその取り組みは限定的です。そのため、全農は、生産・流通・飼料利用におけるメリットや課題を確認するため、宮城県のJA古川やJA全農北日本くみあい飼料㈱と連携し、令和4年度から大規模実証に取り組みます。【宮城県本部、耕種総合対策部、米穀部ほか】

子実トウモロコシは、トウモロコシの子

実のみを利用するもの。わが国では、飼料原料を中心に年間約1500万トが使用されており、そのほぼ全量を輸入に依

存しています。

海外穀物市場が不安定さを増していることから、国産需要の高まりが見込まれ、主食用米からの作付け転換を通じ、①主



子実トウモロコシ

10a当たりの労働時間(農水省) (時間/10a)

水稲	大豆	子実トウモロコシ
23.8	7.5	1.2

食用米の需給改善と米価の安定②食料自給率の改善が期待できます。

また、子実トウモロコシには、①労働生産性が高いこと(面積当たりの労働時間が少ないこと)②大豆や小麦など輪作作物の生産性向上に寄与すること③耕種農家の所有機械を中心に作業が可能であることなど、生産上の有利点があるほか、堆肥の利活用による耕種農家と畜産農家が連携した循環型農業の実現にもつながります。

こうした背景から、令和4年度には国からの政策支援が拡充されています。

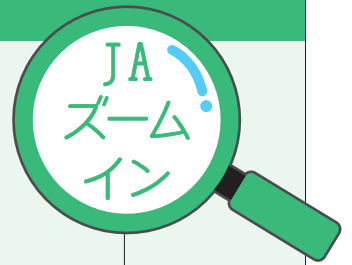
全農は、令和4年4月から、JA古川管内の大豆生産組合を中心とした31経営体91軒の圃場で、子実トウモロコシと大豆の輪作に取り組み、収穫した子実トウモロコシをJA全農北日本くみあい飼料の石巻工場に輸送して飼料原料として使用する、大規模な実証試験に着手しました。この中で、生育調査の他、栽培機械、施肥、防除など、流通(乾燥調製、輸送など)、飼料原料としての適性など、

播種作業風景



さまざまな分野の試験を実施するほか、次年度以降の水平展開に向けて、他産地のJA関係者を参集した現地研修会を開催する予定です。

実証試験は2～3年継続する計画で、将来的には栽培面積の大幅拡大や国産子実トウモロコシを活用した畜産商品の開発など、生産者や実需者と連携した取り組みの拡大を模索していきます。



「農家所得の増大」に向け

JA職員一丸で取り組む

JA直鞍は、福岡県の北部に位置し直方市・宮若市・鞍手町・小竹町の2市2町で構成され、水稻栽培を中心として麦作、野菜、果樹、花卉、施設栽培など



ブロッコリー推進会議で説明を聞く参加者

が盛んに行われています。また、施設栽培ではイチゴやブドウ、花卉などで雇用型経営が多く、大規模に行われています。

県北地区広域販売センターを活用した「農家所得の増大」

同JAでは、市場価格の低迷や農家の高齢化、資材費コストの高騰により農家所得の減少、離農などが加速化している中、「農家所得の増大」を目標に令和元年度に直方市を拠点として建設された「JA全農ふくれん県北地区広域販売センター」を活用した取り組みを検討しました。県北地区広域販売センターでは①パッケージ利用による出荷

調製の省力化②資材費コストの削減③安定した価格での取引④地の利を生かした農家直接の持ち込みで輸送費の削減——などが挙げられました。

品目の選定では、将来的に大規模栽培が可能な水稻の後作として、ブロッコリーに着目し、11～3月の期間で取り組むことにしました。JAからの支援としては、播種機・定植機の貸し出しを行い、栽培の一役を担うようにしました。栽培計画は、単年度ではなく中期的な計画を作成。1年目5畝、2年目8畝、3年目10畝とJA職員一丸となり推進しました。この結果、目標である面積の達成と生産者増につながりました。

JA直鞍 (福岡県)



概要		令和4年3月31日現在
正組合員数		3687人
准組合員数		5327人
職員数		124人
販売品取扱高		14億6千万円
購買品取扱高		18億1千万円
貯金残高		695億8千万円
長期共済保有高		1364億円
主な農畜産物	イチゴ、ブロッコリー、巨峰、米、麦、大豆、トルコギキョウ	



水稻の後作として力を入れるブロッコリーの定植作業

「収量アップ」に向けた取り組み

品質の向上・収量増大に向けた取り組みとして、土づくりの推進も行っています。JAで運営する「アグリ土づくりセンター」の良質な堆肥を投入することにより、地力の維持と

向上で品質アップ・収量アップにつながっています。アグリ土づくりセンターの堆肥は、畜産農家の牛ふん100%に木くず(チップ)バークを加えたもので、80度前後の堆肥熱で発酵させ、切り返しを行いながら、4～5カ月かけて出荷しています。管外からの引き合いも強く、水稻を中心に野菜・果樹で多くの方に利用され大変好評です。ブロッコリーでも栽培基準を作成し、必ず堆肥を投入しています。今後は、さらなる中期計画を作成し、出荷期が重なり集中しないよう作型の分化を綿密に行いながら、各関係機関と連携を図ります。

子どもたちの食生活が今危ない

農業ジャーナリスト 山田優



世界的な人口増加や異常気象、ウクライナ情勢に見られるような地政学的リスクにより、今、わが国では「食料安全保障」という国民が必要とする食料の安定的な調達という量的な食料問題がクロージアップされています。一方で伝統的な食の継承や地域性などを維持していく「健康で文化的な食生活を送る」といった質的な権利を守っていくことも大事であると私たちは考えます。そのことはJAグループにとっても重要なテーマの一つです。現地事例や識者の見解をもとに、その「食料への権利」を守るためには何が必要か、皆さんと一緒にシリーズで探っていきます(全6回)。

新型コロナウイルスの感染拡大は、非正規雇用者やひとり親世帯など弱者に悪い影響を与えています。子どもたちにそのしわ寄せが及んできました。

文科省によると、小中学校の児童・生徒を対象にした就学援助を受けている割合は14・5%です。実に7人に1人以上。貧困は決して一握りの問題ではありません。

貧困と子どもの食に詳しい東京都立大学の阿部彰教授は「家計費を削るには食費しかない。家賃、通信費、公共料金、学費は削減が難しい」と指摘します。

やりくりをできるのは食費だけ。子どもたちはその節約に直撃されるのです。

ある調査では貧困層の子どもで「給食以外で毎日野菜を食べる」

と答えたのは半分以下。「1週間のうち、4、5日は朝ご飯にも夕ご飯にも野菜が出てこない」と回答が寄せられました。そうした家庭では、肉か魚を食べる頻度も低くなっています。阿部教授によると、食事回数を減らしたり、手っ取り早くおなか膨れるでんぷん系のパンやうどん、米だけで飢えをしのいだりする子どもたちが多くいます。

日本国憲法で定めた「健康で文化的な生活」を送るための食料への権利が、子どもたちの間で侵害されているのが現実です。

食料への権利。耳慣れない言葉ですが、国際社会で注目されています。食べものを確保する目安として、食料の自給率などを含めた国の食料安全保障がよく語られます。食料への権利は、すべての

人が健康で文化的な食生活を送ることが保障されるべきだという考え方です。

国全体として食料が確保されても、満足な食生活を送ることができなければ、食料への権利が侵害されています。

政府の社会保障政策は、欧米に比べ食料への権利に十分に配慮する内容になっていません。NPO法人や地域団体などが、こども食堂などの支援をしています。各地の農家やJAでも農産物の提供を通じて寄り添う動きは広がっています。

JAグループは、国内の農業生産を中心にして食料安全保障を確立することを主張しています。国内に広がる貧しい食生活にも目を向け、食料への権利を守る姿勢が求められているでしょう。

食べられない子どもに寄り添って40年

広島市の中本忠子さん(88)インタビュー

——親のネグレクトにあった子どもたちに40年以上食事を通じ支援してきました。

犯罪や非行に走る子どもたちには共通して空腹、孤独、居場所の欠如があります。その三つが解決できれば問題は収まると思います。私にできることとして食べさせることを続けてきました。腹が減ったから万引きする。気を



広島市のNPO食べて語ろう会事務所でも今も台所に立つ中本忠子さん

紛らわそうとシンナーを吸う。彼らに何を言っても馬の耳に念仏です。特効薬はありません。とにかく食べてもらう。そうすると子どもたちの表情が変わります。さらに「ワシよりもこいつの方がたいへんや」みたいにして、別の友達を連れてきます。どんどん子どもやその親まで増えて、自宅で毎日5kgの米を炊いていました。その後、地域の人たちと一緒にNPO法人にして活動が続けられました。

——経済困窮者には生活保護などのセーフティーネットがありますが、機能していないのでしょうか。

生活保護などで守られている親が薬物、アルコール、ギャンブル依存で子どもが十分に食べられない事例が多くあります。虐待

や育児の放棄ですね。その子どもが大人になって、ふたたび子どもを虐待する。満足な食事ができない。どこかで止めないと、社会の中で負の連鎖が続いてしまいます。誰にでも(健康で文化的に)食べる権利はあるはずです。

——食事には手間が大切だと言っていますね。

家庭の中でお母さんが食事の大切さを伝えることが望ましい。おむすび一つでも良いから自分で作ってあげてほしいといつも言います。それができないから私が作る。食べることで大切なのは、手間をかけることです。インスタントや出来合いのものを出すのではなく、一生懸命作ること。その熱意は必ず子どもにも伝わります。

——農業関係者からの支援を受けていますか。

今は米、野菜、果物や卵などの支援が多く、ほとんど食材を買う必要がありません。広島県

や長野県のJAが支援してくれます。地元では農家がJA直売所に出荷する際、野菜などを特別な箱に入れます。それを私たちが毎週2回引き取る仕組みです。個人農家も「広島市内に出てきたから」とふらつと現れ、ホウレンソウを置いていくこともあります。卵は佐賀と神奈川などの養鶏農家から毎週宅配便で届きます。地元の生協は、毎週1万円分の商品を支援してくれま

(山田優・農業ジャーナリスト)

「ニッポンエール 宮崎県産日向夏」も リニューアル 日向夏ファンを広げ、生果の販売拡大も目指す

全農が(株)伊藤園、JA 宮崎経済連と連携して昨年発売したニッポンエールプロジェクトの清涼飲料水「宮崎県産日向夏」について、好評によりリニューアルして発売します。

【営業開発部】

第1弾商品の発売時には、「日向夏」の産地である宮崎県内を中心に、大々的に展開するなど、地域をあげて盛り上げていただきました。また清涼飲料水のみならず、日向夏を使用した

ドライフルーツやグミ、サワーなどの商品化も広がり、産地から喜びの声をいただいています。

今回、リニューアルして発売する「ニッポンエール 宮崎県産日向夏」は、宮崎県産日向夏のスッキリしたおいしさと爽やかな香りが楽しめる清涼飲料水です。「日向夏のおいしさを全国の皆さまに知ってもらいたい」という思いとともに、本商品を通じて日向夏ファンを広げ、生果の販売拡大にもつなげていきたいと考えています。



「全農東北プロジェクト」ホームページ開設 東北の魅力を特設サイトで発信

全農東北プロジェクトは発足8年目を迎え、東北6県のイベントや季節の情報など発信するため、5月にホームページを開設しました。

【全農東北プロジェクト】

より多くの人に、「東北」の見どころやおいしい食べ物など、さまざまな魅力を知ってもらうため、特設サイトを開設しました。東北6県のイベントや商品の情報を一元的に紹介し、SNSと連携することで東北の四季折々の旬の情報がわかる構成となっています。また、JAタウンやみのりみのるプロジェクト、6県本

部などの関連サイトとリンクすることで、より多くの人に楽しんでもらえるようにしました。



東北プロジェクト令和4年度の新メンバー

東北の食
未来プロジェクト



ホームページは
こちら



JA全農のインターネットショッピングモール JAタウン ショップ紹介

JA全農かながわ

神奈川県西部では温暖な気候を生かし、温州ミカンの栽培が盛んに行われています。その県産温州ミカンで100%使ったジュースが「JAみかん畑」です。ミカンの皮を一つずつむいて搾り、香料や甘味料などを一切使わずにおいしさをぎゅっと詰めました。1缶195gと飲みきりやすく、幅広い世代の方にお楽しみいただけます。

今回、より親しみやすく手に取りやすいデザインを目指し、5年ぶりにパッケージをリニューアルしました。



ミカンがそのまま! ストレート果汁みかんジュース
195g×30本入り……3900円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

